

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Dollar Bill in 1995

りの数 10ドルのチップは靴下に忍ばせて毎晩帰宅していた。

10ドルだけポケットに入れていたのは、万が一、帰宅中にホールドアップ（路上強盗など）に遭った場合、直ぐに渡せるようにしていたためだ。結局 4年間のニューヨーク生活で一度も危ない目に遭わなかったのだが、知り合いの何人かは命こそ奪われなかったものの危ない目に遭っていたため、常に備えはしていた。また、財布も持ったことはなく、路上は勿論、バーや店などでドル札の束を見せることは危険で、ズボンの後ろのポケットに財布を突っ込んでおくようなことは「どうぞ盗んで下さい」と言っているようなものだった。

ニューヨークで生活していると、日本がどれだけ平和か実感するのだが、チップが 100ドルを超えた夜は、帰宅するまで少し緊張感が走ることもあった。毎月の家賃の支払いも、当時はアパートの地下に備えられた頑丈なポストみたいところに入れて封筒に名前を書いて現金を入れて投函し、白人の年老いた大家さんが毎月回収に来ていたが、今思うと何とも物騒だった。

生活費については、毎月の家賃にガス・水道・電気代が含まれていたため、交通費と食事代に娯楽費を幾らか使っても、毎月数 100ドルを貯金出来ていた。かと言って、その日暮らしのようなウェイター稼業だったため、多額の貯金が出るわけでもなく、銀行口座を開設するという考えもなく、学生ビザでの入国だったため、いずれにしても口座は開けられなかったのかもしれない。

そんな訳で、貯金は紙の封筒に入れて、ベットのマットとシーツの間に隠し続けていた。小銭も結構貯まってしまうため、25セントコイン以外は大きな水の空きボトルの中に貯め込んだいた。物騒と言え物騒だったかもしれないが、自分が住んでいたアパート内で盗難事件があったということはなく、結局 4年間「タンス預金」ならぬ「ベット預金」を続けていた。

近年、日本でもどんどんキャッシュレスが進んで、現金を持たない若い人たちも増えて来ているようだが、当時のニューヨーク生活では、全て現金支給、チップも現金で貰うと格別な喜びがあった。現在のアメリカではチップもキャッシュレス化して、アプリなどで対応しているのとは分らないが、ポケットと靴下にドル札を忍ばせていた頃が懐かしくもある。

## 《ベット預金》

今回はニューヨーク生活のお金の管理の話。日本では「銀行預金」など金融機関に預けられているお金と対比して、家庭内に保管されている現金を指す「タンス預金」と言葉がある。ニューヨーク生活では、レストランのウェイターの仕事で得ていた時給（当時 1時間 = 1ドル 50セント）とチップだけで生計を立てていた。

「Vol.37」のこのコーナー《収入&生活費》で、1995年 4月当時のウェイターとしての月収は 1459ドル（1ドル = 100円計算で 14万 5900円）と触れたことがあったが、チップはランチとディナー終了時にその場で現金支給だった。4年間のニューヨーク生活では、銀行口座などは持っていない、ディナーが終わってチップを貰うと 10ドルだけポケットに入れ、残

## Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Barnes & Noble Bookseller

バーンズ&ノーブル・ブックスエラー

今回はオアフ島のアラモアナショッピングセンター内に佇む「バーンズ・アンド・ノーブル・ブックスエラー」。米国最大の大型書店チェーンで数年前にカハラモール店が閉店し、現在ハワイにはアラモアナ・センター店のみ。様々な分野の書籍、ハワイアンミュージックも豊富な音楽 CD や DVD に文房具や雑貨類も取り扱っており、店内も広く一日中いても飽きない。店内にスターバックス・コーヒーが併設されており、WiFi も設置されている。ハワイ旅行中に静かな時間を過ごしたい時に最適なスポット。

HP : <https://stores.barnesandnoble.com/store/2249>

《ハワイな一枚》



EA  
Sudden Rush  
Quiet Storm Records [Import CD]

2002年にリリースされたハワイのカルチャーやストーリーを語るアイランドレゲエバンド、サドン・ラッシュのアルバム。ジャケットデザインがビートルズっぽい。